

新たな提案を地域に提供するパイオニア

株式会社イソジエック 代表取締役

磯田 忠雄氏

測量会社が使う機器の一つであるGPSシステム。

より正確な位置を把握するためのシステムだが、車輛や船舶、あるいは人に持たせて位置を知らせるソフトに開発した。長距離トラックの運送管理や、自分の位置を家族がわかるようにする中で、IDパスワード管理をしたプライバシー性も考慮されている。

この新たな技術を貴方は何に使いますか。

—今回GPSのソフトを開発されたという事ですが、具体的にはどういったソフトなのでしょう。

磯田 インターネット環境が整っていればお客さんの方で自由に位置を確認する事ができます。またこのシステム自体はパソコンを持っていけば、初期費用がかからないという事が魅力です。IDとパスワードを購入する事で、ソフトを立ち上げた時にそれらを入力する事ができます。するとその人の位置情報がパソコンに表示されるのです。それで初期費用がかからないのです。それが一番の魅力だと思います。

後はお客さんに出来るだけ低額で提供したいという思いから、車、車輛関係だとか、船でもGPS1つに付き1万5000円ぐらいを目安に販売したいなと思っています。この中にはレンタル料も含まれています。尚且つ通信

料も入れたい。そうすると自分たちのシステム料は僅かなものになるのですけれども、誰もが使いやすいような形で広めていきたいと思っっている、このようなシステムにしました。

—使用例を教えてください。

磯田 例えば運送会社。運送会社で車にGPSを設置して、助手席の下に入れてあげます。そしてシガーレットから電源を取る。もう一つの方法はGPSのアンテナをフロントに置いてあげるとフロントからGPSが取れるという事です。またはGPS付きの携帯電話をフロントのところに置いておくだけで良いんです。

問題はGPSを発信する間隔ですね。それを3分にするのか5分にするのか10分にするのか、対象物のスピードによって異なってきます。

また、今年には除雪車にも付けていたりしています。この場合も除雪車のフロントのところに滑らないマットをひいて、GPSを置いておけば滑りませんから。だから全然荷物がいりません。除雪については5分、10分くらいのGPSの取得にしています。除雪の場合にはゆっくり走るのでもそれでいいのですが、車は60キロ、70キロで走っているから、人によっては3分で取ったり1分で取ったりしています。ただ、1分にするのと取得回数が多くなるので費用もかかりますから、大体3分、5分にしていきます。

車輛、運送管理システムという形になると結局今までは電話で「どこを走っているの」となっていたでしょう。今は法律で禁じられて運転中に携帯電話は使えません。それで今度はパソコンで管理する事によって通話しなくて

いい様にしたんですね。位置がきちんと把握できるから逆にお客さんから問い合わせが来た時に、「次はどこどこに行つて」と言えますよね。

除雪は雪が降つたら作業を始めますよね。また雪が大量に降らなくても風が吹けば農家の方は吹き溜まりになつてしまいます。そうしたらまた除雪しなければならぬ。だからどうしても役所サイドも除雪したかどうかというのを確認したいんですね。従来は確認する為にパトロール車で確認作業してきました。でもGPSによってそういう確認作業をしなくても実際にどこを走ったか地図上で確認できます。逆に役場の担当者はお客さんに対応できるし、指示もできる様になる。今後は



お客さんにGPS携帯を渡してあげて、管理者の方で場所を確認したりする。もちろん民間業者サイドでも状況を見て次の現場はこう動くという指示がしやすくなります。そして業者さんのほうから役所に「提案」するという事ができるわけです。そういう面で導入していったりします。

——一部報道でGPSを使うと自分の漁場が皆に知られてしまうとありますが、IDとパスワードで管理されているので問題ないのですよね。

磯田 問題ありません。たぶん「見ることが出来る」という言葉に対してそういう発言が出てきたと思うんですけど、ですが個人情報なのでIDとパスワードがないと見る事ができません。なので人の場所は勝手に解らないんですね。

例えば自分のところで船を持っていると、奥さんが心配だという事がありますよね。漁に出て帰ってこない。一台IDパスワードを持っていて、奥さんが家庭でそのIDパスワードを持っていけば家のパソコンで船の位置を見る事ができますよね。だからそういう形が取ればいいと思います。無作為に色々な人の位置が確認できるという事はありません。会社のソフトを作った例えばそれをどこかに持っていった見られたという意味合いではありません。インターネットで見れるという言

葉がありますけれども、当然そこに入っても商品を買ってもらってはじめてIDパスワードが発生しますからそれが無いと見れないんですよ。安心して使う事ができます。

例えば山登りをやっている人がいる。冬山登山で何人か雪崩で流された事件がありましたね。ビーコンを付けなければいいというけれども、ビーコンは大きいものですから邪魔ですよ。それを考えるなら携帯を持っているんじゃないのかと。たぶん携帯にはGPSが付いていると思います。GPSをこういうシステムに連動させれば位置が解つたんですよ。そういうものを登山する時に渡して、降りてきた時に返してもらいようにする。そうしていけば遭難などの事故が少なくなるのではないのでしょうか。

——携帯の電波とGPSは関係しているのですか。

磯田 関係あります。電波と連動しています。GPSはこの段階で多分どこでも取る事ができます。ただ、受信はできるけれども受信したものを送信しなくてはならない。この送信は、某大手の通信を使っています。それがデータセンターに入って、個人のパソコンで見れるようになってくるんです。ですから携帯電波が取れないところは表示されません。だけでも常時取得しているわけですから、この点では取

れなかったけれどもその次は取れているという事があります。取れないところというのはそんなに無いと思うのですが、山奥にでも入って、木が生い茂って電波がさえぎられているようなところとかそのぐらいいはないかと思えます。でもそのような所に入って行く事はあまり無いと思うので、大体はクリアできるのではないかと思います。今テストしている分には電波は取れているので、これからはこういった時代になるのではないかと思います。

——実際に開発されて周りの反応はどうでしょうか。

磯田 この種のものというのは車輻関係に使われるのがメインなんですけれども、僕の考え方は例えば、北海道の田舎の方に行ったら一次産業が強くあります。別海なんかは一次産業の酪農が強いわけでしょう。農業にせよ、漁業にせよ、今標準あたりでやっているハサップも具体的には価格を上げる取り組みです。例えば魚一本あたりの単価を上げるという事がハサップなんですよね。けれども、ただ獲って衛生管理をしただけでなく、そこから消費地までどのような形で運送されているかというものからもう一つ踏み込むならば、冷凍車にGPSを入れて温度を管理して、ちゃんと消費地まで持っていきますよという事で、魚の一本あたりの単価を上げる事が可能だとい

うんですよ。だから標準産は本当に良くやられているなと思いますね。このハサップがモデルとなって色々なところでやる事になるだろうけれども、今はそれにもう一つ付加価値をつけるという事をする。そうする事によって漁師さんの獲った魚に付加価値をつけて少しでもこの町が良くなってくれればという事を思うんです。もう一歩踏み込むなら、漁場の管理ですね。養殖事業というのは毎年同じところで獲れないわけだから、ローテーションをつけるんです。陸上でいう畑と同じです。海に畑を作る。海の畑できちんと管理する。今年はこの地点で獲るけれども、来年はここ、再来年はここ。こういう事をやられてはいると思うのだけれども、それは「大体の形」だと思っても、それは「カンか、図面にこの辺かな」と書いてあるか解りませんが、それで示さなければちゃんと海の経緯度の位置を示さなくてはいけない。今年はこのポイントで獲った。来年はこのように海の畑に区域を作った。獲りましようよ」というような形をとっていく。そうする事によって資源が保護されていくんですね。そうしたら毎年毎年保護される事になりますよね。そうすると一定量のものがきちんと獲れる。来年も一定のものが獲れる。それをきちんと使う事で獲れ高をアップする事を考えていけばいい。そういう

事もできてくる。

だから農家にしても漁家にしても、一つの知恵の提供というか、それが広がっていったら「自分ならこういう事に使う」「もっとこういう事はできないんですか」という発想が生まれてくる訳ですよ。たぶんそういう事が可能だと思っただけですね。もう一つこのシステムの特徴というのは地図が独自に作られているという事です。従来の位置情報というのは決まったものしか入っていないんですよ。僕が使っているのは国土院の承認を全部とったものを入れてるんです。それで足りないものを自分で入れて作っているわけです。なのでお客さんが作って欲しいというものはお客さんのオリジナルのものになる。作って中に入れて提供してあげる。そうするとお客さん専用のシステムができるわけですよ。尚且つ安く手に入るなら一番いいじゃないですか。

が良い走り方なんですよね。そういう意味では運転手さんに対するアドバイス、指導で運行管理ができるかもしれない。特に大型バスですとか大型車両というのはリッターそんなに走らないはずですよ。そうやって考えると元が取れると思いますよ。

ただ一番困るのは運転手さんが監視されているのではないかと考えている方になってしまふという事です。管理者が自由に休ませる雰囲気を作らなくて駄目なんです。そうする事によって休む事も仕事なんだという事で堂々と休む雰囲気を作る。そうしないと一日中監視されているとなってしまう。すると、運転手さんの理解がないと導入するのは無理なんです。すでにやっている人の感想で言えば、気になったのは最初の2、3日だけだったと言いますね。その後はずっと続けています。何でもそうなんですけど、最近は何でもそうなるんですけど、最初は最初に組み組むとなるとどうしても否定的な部分から入ってしまう。ある意味で会社を良くするとか、会社の効率性の為に組み組もうとか、そういう気持ちで一緒にやってみるといこう考え方にかかると、監視されているから嫌だとか、どうしてもそうなるってしまします。でも管理者の立場から考えると当然必要な物になってくるんですよ。現状例えば遠距離のトラックがどこを走っているか解らないと、管理者は冬道になるとより心配ですよ。だけれ

どちゃんと走っているのが画面上で見えていけば「きちんとしているな」と思う事が出来る。逆にこちらが少し休みなさいよとか、御飯くらい食べなさいと言っただけで、御飯くらい食べなさいといかない。そうしないと車がどこを走っているのか解らなくなりますからね。

—今後の構想はありますか。

磯田 今考えているのはこのシステムについて大手さんが付いてくれたり、応援してくれたりいいと思っています。私自身が近隣について歩く営業は不可能なんです。それで協力したいという人達が出てきたら、代理店とか、そういう事も考えようかなと思っ

るんですよ。道内にやりたい人達でネットワークを作ってやっていきたいと思っています。

僕自身これについては、こちらの方であまり発表しなかつたんですよ。札幌とか色々なイベントの時に発表していますので、むしろ札幌近郊の人達が知っていますし、大手さんも知っていますね。このシステムの活用についても私は色々なアイデアを出して発表して、皆さんがどう感じるかを大切にしたい。やはり喜んでもらえる様に作らないといけません。せっかく作ったのですから、地域の為にとか、みんなの為にという事を、やっていけたらと思いますね。

